

ワゴン清掃を統一した方法でしよう ～清潔なワゴンでケアするために～

松江赤十字病院

看護部

なかむら あけみ
中村明美

1. テーマ選定理由と背景

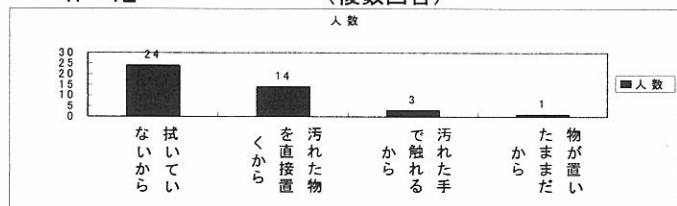
私たちは点滴や測定機器・寝具類など患者様に使用する様々なものをワゴンの上に乗せている。そのワゴンの清掃について当院では統一した方法はなく、当病棟でも特に取り決めはされていない。そのためスタッフ1人1人のやり方に任せており、実際ワゴンを拭いていないスタッフが多く、方法もまちまちな状況である。先頃、他院でタオルから血液感染した報告例があった。また、当病棟でのワゴン上の菌検査行ったところ、MRSAが検出された。よって患者様の清潔環境が保てるために私たちの手指の清潔に気をつけることはもちろんのことであるが、ワゴン上の清潔にも意識していく必要があると考えた。今回は除菌ではないがワゴンの統一した清掃というテーマに取り組んだ。

ワゴン上段の菌検査結果

12台のうち1台はMRSA菌が検出された。
11台は表皮ブドウ球菌が1台平均19ヶ
検出された。 H18. 7. 7調査

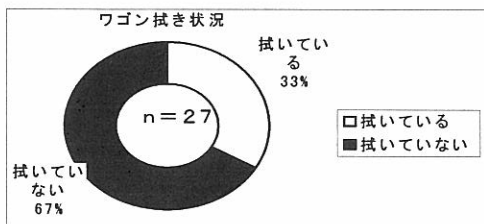
調査したワゴン12台に平均19ヶの
コロニーを検出。MRSA菌も検出し
ていた。

図1 ワゴンが汚い理由についてスタッフ対象アンケート
n=42 (複数回答)



作成日 H18. 9. 23 作成者 松本

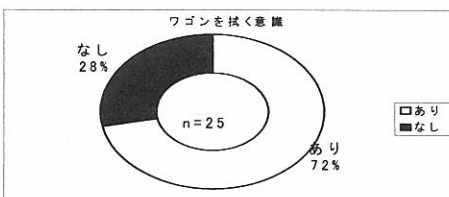
図2 ワゴンを拭いているかどうかスタッフ対象アンケート



作成日 H18. 9. 20 作成者 中村

2. 現状把握

図3 ワゴンを拭く意識のアンケート結果



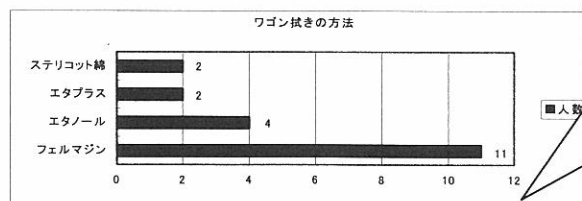
作成日H18. 9. 20 作成者 中村

ワゴン使用状況

- ・観察(血圧計、SPO2、バインダーなど)
- ・薬類(注射・内服薬)を乗せてのベットサイドでの投与
- ・医療・看護処置
- ・カルテ及び書類類の移動
- ・オムツ交換
- ・移動時の患者さま荷物運搬
- ・製薬元から送られた薬液のダンボールまたは薬局か薬液かこの病棟での運搬
- ・シーツやマット類の交換
- ・環境整備(ゴミ集め、ベットサイドの清掃)

以上のように様々な利用をしている。

図4病棟でのワゴン清掃方法



様々な方法で
あり、清掃方法
に問題があ
った。

作成日H18. 9.23 作成者 西村

- ・フェルマジンやエタノールは高価であり、清掃を目的に使用する必要はない
- ・ステリコット綿は小さくて拭けず、エタプラスは手指消毒液である

サークル チーム名		ワゴンお掃除隊		(2006年 9月 結成		
リーダー氏名 (職種)	山根早苗 (看護師)	所属 部門	看護	管理	月あたり会合回数	7 回
リーダー経験年数	初回		医療技術	事務		
メンバーの数	計 名	活動 内容	その他 ()	能率	平均出席率	70%
	うち男 0名 うち女 8名		①質	CS モラール	テーマ歴 (このテーマで)	1件目
			コスト	安全		

ワゴンを拭かなかった理由

習慣がないから	9	習慣
他の人も拭いて使用すると思うから	5	習慣
目に見えた汚れがないから	3	意識
また汚れるから	2	意識
不潔な物を置くから	2	意識
不潔な物を置かないから	2	意識
物が置いてあるから	1	意識
短時間で汚れないから	1	意識
使用したワゴンがなくなるから	4	その他
忙しかったから	3	その他

図5 拭かなかった理由

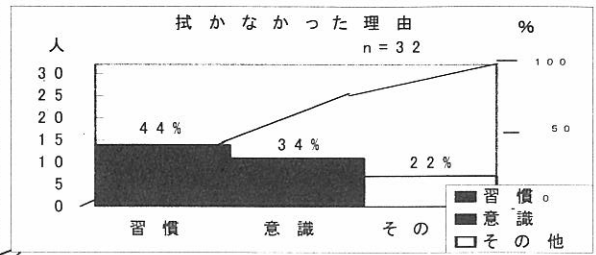


図6 ワゴンが汚いという意識があるかどうか



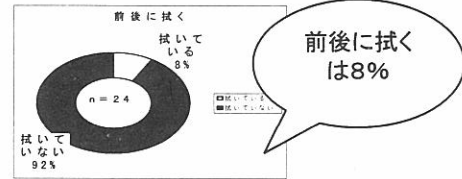
作成日 H18. 10.2 作成者 平田

習慣と意識に働きかける。

61%がワゴンが汚いという意識がなかった。他の人も拭いていない、習慣がないなどの理由が全体の78%であった。

作成日 H18. 9.27 作成者 山根

図7 使用前後のワゴン清掃状況



前後に拭くは8%

作成日 H18. 10. 2 作成者 平田

考察

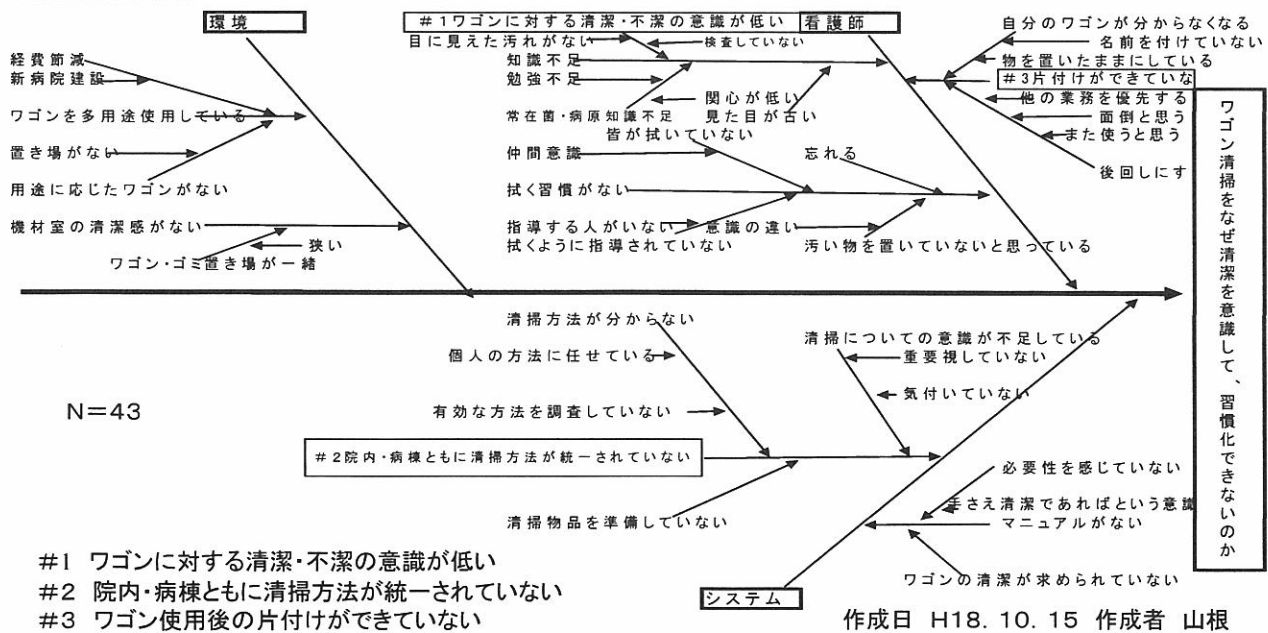
調査結果より、ワゴンを拭くことへの意識は72%の人が持っていたが、実際に拭いている人は33%と半数以下であった。使用前後拭く習慣が必要であるが、8%と小数であった。その理由として見た目によごれがない、汚いという認識がなかったり、又、汚れるからなどワゴンに対する清潔観念の低さがあつた(意識)。又、他の人も拭いていない、習慣がないことが理由の多くであった(習慣)。よってこれらの意識と習慣に対して働きかけることでワゴンを拭く行動に繋がっていくのではないかと考える。

3. 目標設定

何を	いつまでに	どうする	なぜ
全員がワゴンを使用前後に拭くこと(統一した消毒方法にて)	11月末までに	8%を100%にする	ワゴンの衛生を守ることににより、感染を予防するために

作成日 H18. 10. 2 作成者 清水

4. 要因分析



- #1 ワゴンに対する清潔・不潔の意識が低い
- #2 院内・病棟ともに清掃方法が統一されていない
- #3 ワゴン使用後の片付けができていない

作成日 H18. 10. 15 作成者 山根

【検証】

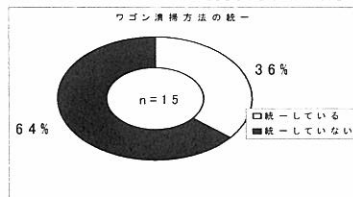
1) 使用後の片付けが出来ていないワゴン調査

16台

対策前 調査期間 H18. 10. 24~11. 1

図8

2) 院内のワゴン清掃方法の調査



15部署中9部署は統一されていなかった。方法もまちまちであった。

作成日 H18.10.15 作成者 中村

5. 対策立案

(要因)

(対策)

(具体策)

実現性	効果性	持続性	重要性	評価	実施
-----	-----	-----	-----	----	----

全員がワゴン清掃を意識し、習慣化するためには

#1 ワゴンに対する清潔・不潔の意識が低い

#2 院内・病棟ともに清掃方法が統一されていない

#3 ワゴン使用後の片付けができていない

ワゴンが不潔であることを認識する

清潔なワゴン使用を意識づけする

清掃方法を検討する

清掃方法を統一する

ワゴン使用者を明確にする

後片付けを徹底する

拭かなかった理由について全員で検討	◎	○	○	○	16	○
菌検査結果を掲示する	◎	○	○	○	14	○
感染事例を調べ掲示する	△	○	△	○	8	×
ワゴンの上の板を交換する (見た目にきれいなワゴンにする)	○	○	○	○	12	○
用途に応じたワゴン使用	△	○	△	△	6	×
責任者による清掃時間の声が	△	◎	△	○	10	×
消毒方法を調べる	◎	◎	○	◎	18	○
方法の効果を検証する (マイベット清拭後の菌検査の実施)	◎	◎	○	◎	18	○
スタッフへ方法を掲示する	◎	○	○	◎	16	○
消毒物品を定位置に設置	◎	◎	◎	◎	20	○
経費節減・消毒効果を伝える	◎	◎	○	○	16	○
ワゴン使用者の名札をつける	○	○	△	◎	12	○
ワゴン使用時は前の使用者に確認して使用	○	○	△	○	10	×
片付け方法を掲示する	○	◎	△	○	12	○
薬室室の環境整備をする	△	○	△	◎	10	×
休憩・終了時に片付けの声を をすする	◎	△	△	○	10	×

作成日 H18. 11. 2 作成者 山根

* 消毒方法について

ワゴン清掃は一般的に家庭用洗剤を使って清拭し、よく拭き取るのが基本とされている。アルコールは蛋白を固めるので、表面が曇ってきて、汚れがシミになって残る。また、拭いてどんどん広げることになると言われている。

アルコールを使用せず、家庭用洗剤が推奨されている。

参考文献 根拠で見直す消毒・滅菌物品管理 参考意見 当院角感染認定看護師

* 家庭用洗剤使用による消毒効果

家庭用洗剤で清掃したワゴンは、10台中表皮ブドウ球菌1~2ヶ検出するのみであった。

清掃していなかった時は平均19ヶコロニーが検出。MRSA菌も1台検出した。

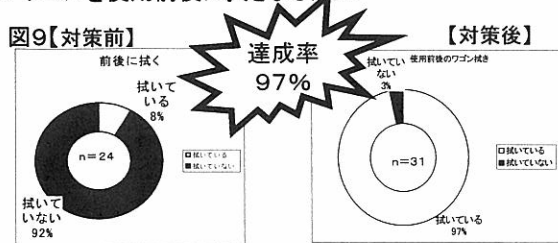
6. 対策実施

何を	誰が	いつ	どのように	結果
拭かなかった理由についてスタッフ全員で考える。	全員	10月10日~10月19日	特的要因図の要因を1人3ヶ以上挙げる	ワゴンを拭く意識が高まり、ほとんどの人が使用前に拭くようになった
菌検査結果を掲示する。	清水	11月10日	培養された菌の写真を掲示 汚さをアピールする。	汚さが分かった。
見た目にきれいなワゴンにする。	山根	11月7日	ワゴンボードを更新する	ワゴンをきれいに使用するようになった。磨くようになった。
消毒方法を調べる	中村 平田	9月13日	感染認定看護師に聞く。また、文献検索する。	今までのやり方に問題があることが分かった。方法が分かった。
方法の効果を検証する	清水 山根	10月2日	家庭用洗剤清拭後の菌検査を実施し、効果を発表する。	家庭用洗剤の効果を確認できた。
スタッフへ方法を掲示する	中村 野津	11月7日	ワゴン清掃の手順を張り出す。 説明する。	曖昧な方法を統一することができた。
消毒物品を定位置に設置	山本	10月10日	家庭用洗剤液25mlを水500mlで薄め、霧吹き容器に入れて使用	全員が同じ方法で清掃するようになった。
経費節減・消毒効果を伝える	中村	11月14日	フェルマジンと家庭用洗剤液の使用金額を掲示。検査結果を掲示する	エタノール、フェルマジンの請求数が増えた。経費節減に効果あった
ワゴン使用者の名札をつける	清水	11月6日	名札を準備し、使用前につけ使用、後に外すことを統一する。	ワゴンが不明にならないが、しかし付けられない人もいた。
片付け方法を掲示する。	錦織 西村	11月7日	ワゴンの片付け方法を掲示する 説明する。	文章化することで統一しやすくなった。

作成日 H18. 11. 13 作成者 野津

有形の効果

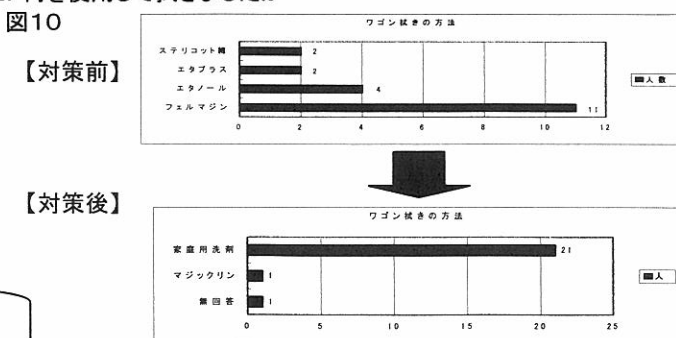
1. ワゴンを使用前後に拭きましたか



作成日 H18. 12. 10 作成者 中村

ワゴン使用前後に拭く行為が97%できた。
また、家庭用洗剤使用での方法に94%が統一できた。

2. 何をを使用して拭きましたか



作成日 H18. 12. 10 作成者 西村

付帯の効果

1) ワゴン使用後の片付けが良くなった。

* 片付けてないワゴンとは廊下に置きっぱなし、ワゴン上に物が置いたままの物。

5日間、日勤終了時片付けてないワゴンの台数をチェックした。

【対策前】

16台

【対策後】

2台

1344円が320円になった。年間では16,128円が3,840円になります。

2) フェルマジンアルコール(500)の使用量が減った。

【対策前】

調査期間 4月～9月

6ヶ月間は月平均4.2本

【対策後】

調査期間 11月

月に1本に減少

3) ワゴンを拭く意識が高まった。

【対策前】 調査日 H18 9/20～10/3
n=25

72%

【対策後】 調査期間 H18 12/4～12/12
n=31

100%

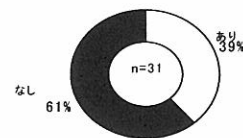
4) ワゴンが汚いという意識がもてた。

【対策前】 調査日 H18 9/20～10/3

【対策後】 調査日 H18 12/4～12/12

図11 ワゴンが汚いという意識の変化

61%は汚いという意識なかった



ワゴンが汚いという意識がもて、拭く意識も全員が持てた。

無形の効果

- ・器材室がきれいになった。
- ・包交車についても考える機会となった。
- ・車椅子や歩行器、カウンターなどにも使用して拭くようになった。
- ・ワゴンの清潔・不潔区域の使い方を今まで以上に考えるようになった。私達の意識が変わった。

作成日 H18 12/20 作成者 平田

* 対策の中効果的であったと思われる方法について調査 n=92 調査日 H19 1. 4

効果があったと思われる方法について複数回答した

使用物品・拭き方の掲示	17
菌検査を行い、結果を掲示	16
消毒物品を定位置に設置	13
ワゴン拭き、片付けの声かけ	12
拭かなかった理由を考える	8
ワゴン使用者の名札をつける	8
後片付けの方法掲示	6
経費節減・消毒効果を知らせた	6
ワゴン使用時の注意点を掲示	4
ワゴンボードを新しくした	2

作成者 平田

8. 歯止め

何を	いつ	どこで	誰が	なぜ	どうする
ワゴン拭き調査	3ヶ月後と6ヶ月後	本館4階病棟	病棟の安全対策係り・感染係りにて	ワゴン拭きを意識してもらうために	勤務前後での拭き状況をチェック、発表する
ワゴン拭き声かけ	毎月第1週	本館4階病棟	病棟の安全対策係り・感染係りにて	徹底するために	勤務開始時と終了時に声かけする。

作成日 H18.1.10 作成者 中村

9. 反省と今後の課題

ステップ	良かった点	悪かった点
テーマ選定	病棟スタッフ全員取り組めるテーマであった	
現状把握	他病棟の状況把握もできた	他病棟Ns全員から状況把握できていない
要因分析	病棟スタッフ全員で要因分析できた	要因の絞込みに苦労した
対策立案	具体的で実践可能な対策であった	病棟内だけでの対策であった
対策実施	患者環境についても配慮するようになった	浸透するまでに時間がかかった
効果の確認	達成できた理由についても確認できた	
歯止め	実践可能であり、継続できる	

作成日 H18.1.15 作成者 錦織

* 現在TQM標準化分科会においてFMER(エラーモード検証)のワークシートでの検証を行い、ワゴンの使用手順を作成し周知した。通常の場合は家庭用洗剤で清掃を行い、血液や体液が付着した場合は次亜塩素酸ナトリウムで清拭することを追加。

10. まとめ

ワゴンを拭くという日常の中では重要視されてないテーマで取り組んだが、ワゴン以外に患者環境、病棟環境にも関心が高まり、多方面での改善が見られた。物品を設置したこと、方法を提示したこと、菌検査を行い結果を掲示したこと、TQMメンバーの日々の声かけが効果があった。また、当病棟に限らず清掃についてはNs個人の意識ややり方に任せられており、アルコールを使用するなど不適切な使用がされている現状があった。コスト面から、感染防止の面からも院内で統一できるように働きかけたい。